

「この作品は悲しいけれど世界の至宝である」 —小林一平 (奇跡への情熱「核廃絶プロジェクト」代表プロデューサー)

長き時を経て、
多くの方々の想いを込めて
幻の映画が奇跡のリマスター

ひろしま

—1945年8月6日、原子雲の下の真実—

デジタルリマスター版
(2017 リマスター)

月丘夢路

岡田英次

加藤 嘉

山田五十鈴

原 保美

利根はる恵

河原崎しず江

徳永街子

月田昌也

三島雅夫

関川秀雄 監督作品

1955年ベルリン国際映画祭 長編映画賞受賞

1953年/日教組プロ/104分/85ミリ→デジタル上映/モノクロ 製作:伊藤武郎 原作:長田新 脚本:八木保太郎 音楽:伊福部昭 撮影:中尾駿一郎、浦島進 監督補:小林一平
助監督:熊井啓 提供:独立プロ名画保存会 後援:世界平和市長会議、日本原水爆被害者団体協議会 配給・宣伝:奇跡への情熱【核廃絶プロジェクト】

平和への祈り ひろしま

広島市民ら約8万8千人が出演し、 原爆が投下された直後の惨状を再現した—

自らも広島で被爆した教育学者・長田新が編集した文集「原爆の子～広島の子供たちのうたえ」を日本教職員組合が映画化を決定し、八木保太郎の脚色により映画化された本作は、広島県教職員組合と広島市民の全面的な協力の下で制作され、多数の広島市の中学・高校と父母、教職員、一般市民等約8万8000人が手弁当の協力とエキストラとして参加した。その中には、原爆を直接経験したものも少なくなかった。映画に必要な戦時中の服装や防毒マスク、鉄カブト等は、広島県下の各市町村の住民から約4000点が寄せられた。『ひろしま』で描かれている原爆投下後の圧倒的な群集シーンの迫力は、これらの広島県民の協力なくしてはあり得なかつたろう。

東宝出身で戦後独立プロに転じた監督の関川秀雄は、原爆が投下された直後の地獄絵図の映像化に精力を傾け、百数カットに及ぶ撮影を費やして、克明に原爆被災現場における救護所や太田川の惨状等の阿鼻叫喚の修羅場を再現した。そして被爆者たちのその後の苦しみを描いた。それはひとえに被爆者たちの声でもあった。

被爆国ニッポンは、すべての核を否定すべきであった、唯一の被爆国だということに、私たちは、核の恐ろしさをもっと大きな声で訴えてこなかったのか…。原発も核開発に他ならない。

(物語り) あの日、1945年8月6日午前8時15分、みち子の姉町子は警報が解除され疎開作業の最中に、米原先生始めクラス的女学生達といっしょに被爆した。みち子は爆風に吹き飛ばされた。弟の明男も黒焦げになった。今ははぐれてしまった遠藤幸男の父・秀雄は、妻・よし子が梁の下敷きで焼死ぬのをどうすることも出来なかった。陸軍病院に収容された負傷者には、手当ての施しようもなく、狂人は続出し、死体は黒山のごとくそこに転がり、さながら生き地獄だった。しかし軍部はひたすら聖戦完遂を煽るのだった…。



『ひろしま』に寄せられたメッセージ

この映画は原爆投下後の広島を描いた数々の映画の中で、一番、事実近くに、迫真性に富んだ映画です。

8月8日、原爆投下の翌々日、市内に入り、足下で逃げた須賀や子足の家が揺る瓦礫の町を歩いた私が、実際に見て体験した原爆の惨状を、生々しく伝える作品であることに間違いありません。

この地獄のなかに、目に見えない原爆放射線が生き残った被爆者の中からどこかを内部被爆でゆっくりと蝕んで行きました。アメリカ占領軍と日本政府とによって捨てられてきた、その内部被爆は今日、福島の人たちと関東平野の住人をまたまた、核み始めています。

原子力発電所は核兵器とともについでず廃棄し、廃止しなければなりません。



肥田舜太郎 (核爆医師 1917~2017)

特別な思いがあります。当時、大手映画会社と専属契約を結ぶ俳優は、他社の作品に出るはいけない「協定」があり、松竹専属の私は出演を猛反対されたのです。それを押し切ったのは私のふるさどが広島だったから。15歳で宝塚音楽学校に進むまで、爆心地に近い大手町に暮らしていました。私と家族は辛くも被害を免れましたが、一発の爆弾で街が消えた衝撃が胸にあり、微力でも平和につながる作品に出たいと思ったのです。エキストラの涙は本物の涙を流していた。画面いっぱい原爆の悲惨さが再現されていて、涙腺がもやもやして良かった。そんな作品が世界の人にも見られるようになるのはうれしい。世界から核兵器を廃絶するヒントになってほしいと願っています。

月丘夢路 (ひろしま 主演 1922~2017)

映画『ひろしま』を見ずして広島とヒロシマを語る事は出来まい。核兵器を国際政治の道具に弄ぶ人々よ、この映画から目を遮らさずべからず。

安斎育郎 (立命館大学国際平和センター 代表)

息が止まった。この映画はかけがいのないもの。大きな力になる。これは絶対に宝にしたい。映画『ひろしま』は言い尽くせないすべてを見せてくれている。平和を勝ち取るための最も力強いものだ。

坪井直 (日本原子爆被害者団体協議会代表委員 / 広島県被爆者団体協議会理事)

映画「ひろしま」上映会 令和5年8月5日(土)

場所 新城文化会館小ホール
時間 開場13時30分 / 開始14時 終了予定16時
入場料 1000円 高校生まで無料

主催 映画「ひろしま」をみる会
後援 新城市、新城市教育委員会、朝日新聞社、中日新聞社、東海日日新聞社、東愛知新聞社、毎日新聞社、新城ライオンズクラブ、新城ロータリークラブ
お問合せ先 090-3831-0876 (平澤) / チケット取扱所 新城文化会館 0536-23-2122